

数学補習プログラム（社会人院生向け）

トピック 11：行列・ベクトル

北村友宏*

2016年3月20日

1 行列（参考書上巻 pp.65-77, 91-102）

1.1 行列の表記

- 数値や変数などを長方形に配列したものを行列（matrix）という。

★ e.g., $\begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 3 & 2 & 1 \end{bmatrix}$ (2行4列), $\begin{bmatrix} x_{11} & x_{12} \\ x_{21} & x_{22} \\ x_{31} & x_{32} \end{bmatrix}$ (3行2列).

- m 行 n 列の行列 A は,

$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix}.$$

- ★ $A = [a_{ij}]$, ($i = 1, 2, \dots, m$, $j = 1, 2, \dots, n$) と書くこともある。
- ★ 配列の各項 (a_{11} や a_{12} など) を行列の要素という。
- ★ m 行 n 列の行列の次元は「 $m \times n$ 次元」と表現する。

1.2 行列の演算

2つの行列を $A = [a_{ij}]$ と $B = [b_{ij}]$ とする。

- 行列の足し算・引き算： A と B の次元が同じ（「 A の行数と B の行数」が同じで、かつ「 A の列数と B の列数」も同じ）ときのみ $A + B$ や $A - B$ が定義できる。
 - ★ e.g., A が 3 行 4 列で、 B も 3 行 4 列であれば $A + B$ や $A - B$ が定義できる。
 - ★ $A + B$ は対応する要素同士（1 行 1 列目同士, 1 行 2 列目同士, ...）を足し合わせて、 $A - B$ は A の各要素から、それらに対応する B の要素を引いて求める。

* Email: kitamu.tom@gmail.com URL: <http://tomkitamura.html.xdomain.jp>

例題 1.2.1

$$\begin{bmatrix} 9 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 8 \end{bmatrix} \text{ を求めなさい.}$$

解法

- 2つの行列の対応する要素同士を足し合わせる.

$$\begin{bmatrix} 9 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 8 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 9+1 & 5+2 \\ 6+3 & 7+8 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 10 & 7 \\ 9 & 15 \end{bmatrix}.$$

例題 1.2.2

$$\begin{bmatrix} 9 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 8 \end{bmatrix} \text{ を求めなさい.}$$

解法

- 左の行列の各要素から、それらに対応する右の行列の要素を引く.

$$\begin{bmatrix} 9 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 8 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 9-1 & 5-2 \\ 6-3 & 7-8 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 8 & 3 \\ 3 & -1 \end{bmatrix}.$$

- 行列の一定倍を、行列のスカラー倍という.
- 行列のスカラー倍：行列にスカラーを掛けると、その行列の全ての要素にスカラーが掛けられる.

例題 1.2.3

$$-2 \begin{bmatrix} 9 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix} \text{ を求めなさい.}$$

解法

- -2 というスカラーを行列に掛けるので、その行列の全ての要素を -2 倍する.

$$-2 \begin{bmatrix} 9 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -2 \cdot 9 & -2 \cdot 5 \\ -2 \cdot 6 & -2 \cdot 7 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -18 & -10 \\ -12 & -14 \end{bmatrix}.$$

2つの行列を A と B とする.

- 行列の掛け算： A の列数と B の行数が同じときのみ AB が定義できる.
 ★ A が m 行 n 列、 B が n 行 r 列 とすると、 AB を計算した結果は m 行 r 列 の行列となる.
 e.g., A が 2 行 3 列で、 B が 3 行 2 列 であれば AB を計算した結果は 2 行 2 列 の行列となる. AB を計算した結果の行列を C とすると、

$$AB = C$$

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \end{bmatrix}_{2 \times 3} \begin{bmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \\ b_{31} & b_{32} \end{bmatrix}_{3 \times 2} &= \begin{bmatrix} a_{11}b_{11} + a_{12}b_{21} + a_{13}b_{31} & a_{11}b_{12} + a_{12}b_{22} + a_{13}b_{32} \\ a_{21}b_{11} + a_{22}b_{21} + a_{23}b_{31} & a_{21}b_{12} + a_{22}b_{22} + a_{23}b_{32} \end{bmatrix}_{2 \times 2} \\ &= \begin{bmatrix} \sum_{k=1}^3 a_{1k}b_{k1} & \sum_{k=1}^3 a_{1k}b_{k2} \\ \sum_{k=1}^3 a_{2k}b_{k1} & \sum_{k=1}^3 a_{2k}b_{k2} \end{bmatrix}_{2 \times 2}. \end{aligned}$$

- * 計算結果 C の第 1 行 1 列目 :
 先行行列 A の第 1 行と後方行列 B の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $a_{11}b_{11}$, 2 番目同士の積 $a_{12}b_{21}$, 3 番目同士の積 $a_{13}b_{31}$ を合計.
 - * 計算結果 C の第 1 行 2 列目 :
 先行行列 A の第 1 行と後方行列 B の第 2 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $a_{11}b_{12}$, 2 番目同士の積 $a_{12}b_{22}$, 3 番目同士の積 $a_{13}b_{32}$ を合計.
 - * 計算結果 C の第 2 行 1 列目 :
 先行行列 A の第 2 行と後方行列 B の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $a_{21}b_{11}$, 2 番目同士の積 $a_{22}b_{21}$, 3 番目同士の積 $a_{23}b_{31}$ を合計.
 - * 計算結果 C の第 2 行 2 列目 :
 先行行列 A の第 2 行と後方行列 B の第 2 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $a_{21}b_{12}$, 2 番目同士の積 $a_{22}b_{22}$, 3 番目同士の積 $a_{23}b_{32}$ を合計.
- ★ AB を計算することを, 「行列 B に左側から行列 A を掛ける」や「行列 A に右側から行列 B を掛ける」と表現する.

例題 1.2.4

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 2 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 2 \\ 1 & 3 \end{bmatrix} \text{ とする. } AB \text{ と } BA \text{ を求めなさい.}$$

解法

- AB は「2 行 3 列」と「3 行 2 列」の積なので, 計算結果は「2 行 2 列」となる.
 - ★ 計算結果の第 1 行 1 列目 :
 先行行列 A の第 1 行と後方行列 B の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $1 \cdot 3$, 2 番目同士の積 $2 \cdot 1$, 3 番目同士の積 $3 \cdot 1$ を合計.
 - ★ 計算結果の第 1 行 2 列目 :
 先行行列 A の第 1 行と後方行列 B の第 2 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $1 \cdot 2$, 2 番目同士の積 $2 \cdot 2$, 3 番目同士の積 $3 \cdot 3$ を合計.
 - ★ 計算結果の第 2 行 1 列目 :
 先行行列 A の第 2 行と後方行列 B の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $2 \cdot 3$, 2 番目同士の積 $3 \cdot 1$, 3 番目同士の積 $2 \cdot 1$ を合計.
 - ★ 計算結果の第 2 行 2 列目 :
 先行行列 A の第 2 行と後方行列 B の第 2 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $2 \cdot 2$, 2 番目同士の積 $3 \cdot 2$, 3 番目同士の積 $2 \cdot 3$ を合計.
- BA は「3 行 2 列」と「2 行 3 列」の積なので, 計算結果は「3 行 3 列」となる.
 - ★ AB と同様の方法で計算.

$$\mathbf{AB} = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 2 \\ 1 & 3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \cdot 3 + 2 \cdot 1 + 3 \cdot 1 & 1 \cdot 2 + 2 \cdot 2 + 3 \cdot 3 \\ 2 \cdot 3 + 3 \cdot 1 + 2 \cdot 1 & 2 \cdot 2 + 3 \cdot 2 + 2 \cdot 3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3+2+3 & 2+4+9 \\ 6+3+2 & 4+6+6 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 8 & 15 \\ 11 & 16 \end{bmatrix},$$

$$\mathbf{BA} = \begin{bmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 2 \\ 1 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 \cdot 1 + 2 \cdot 2 & 3 \cdot 2 + 2 \cdot 3 & 3 \cdot 3 + 2 \cdot 2 \\ 1 \cdot 1 + 2 \cdot 2 & 1 \cdot 2 + 2 \cdot 3 & 1 \cdot 3 + 2 \cdot 2 \\ 1 \cdot 1 + 3 \cdot 2 & 1 \cdot 2 + 3 \cdot 3 & 1 \cdot 3 + 3 \cdot 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3+4 & 6+6 & 9+4 \\ 1+4 & 2+6 & 3+4 \\ 1+6 & 2+9 & 3+6 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 7 & 12 & 13 \\ 5 & 8 & 7 \\ 7 & 11 & 9 \end{bmatrix}.$$

- この結果からわかること： $\mathbf{AB} \neq \mathbf{BA}$ なので、行列の掛け算の順序を入れ替えると別の行列になる。
⇒ 行列の計算の際、行列の掛け算の順序を入れ替えてはいけない。
- 補足：「 \mathbf{AB} は定義できるが、 \mathbf{BA} は定義できない」ということもある。
 - ★ e.g., \mathbf{A} が 2 行 3 列で、 \mathbf{B} が 3 行 4 列のとき、 \mathbf{A} の列数 (3) と \mathbf{B} の行数 (3) が同じなので \mathbf{AB} は定義できる。しかしながら、 \mathbf{B} の列数 (4) と \mathbf{A} の行数 (2) が異なるため、 \mathbf{BA} は定義できない。

※ 「行列の割り算」は存在しない (ある行列を他の行列で割ることはできない)。

1.3 正方行列・単位行列・零行列

- 行数と列数が等しい行列を正方行列という。

★ e.g., $\begin{bmatrix} 8 & 15 \\ 11 & 16 \end{bmatrix}$ (2 行 2 列), $\begin{bmatrix} 7 & 12 & 13 \\ 5 & 8 & 7 \\ 7 & 11 & 9 \end{bmatrix}$ (3 行 3 列)。

- 主対角要素 (最も左上から最も右下に向かう対角線上の要素) が全て 1, その他の要素が全て 0 である正方行列を単位行列という。

★ e.g., $\mathbf{I}_2 = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}, \mathbf{I}_3 = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ 。

- ★ 単位行列は通常、 \mathbf{I} で表し、 \mathbf{I} の右下に行数・列数を添え字として書くことがある。
- ★ 任意の行列 \mathbf{A} について、

$$\mathbf{IA} = \mathbf{AI} = \mathbf{A}$$

が成り立つ (\mathbf{I} の行数・列数は \mathbf{A} との掛け算ができるように設定する必要がある)。

- 全ての要素が 0 である行列を零行列という。

★ e.g., $\mathbf{O}_{2 \times 2} = \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}, \mathbf{O}_{2 \times 4} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}$ 。

- ★ 零行列は通常、 \mathbf{O} で表す。
- ★ 正方行列でなくてもよい。
- ★ 以下の法則が成立する。

$$\begin{aligned} \mathbf{A}_{m \times n} + \mathbf{O}_{m \times n} &= \mathbf{O}_{m \times n} + \mathbf{A}_{m \times n} = \mathbf{A}_{m \times n} && \text{(零行列を足しても元の行列と同じ),} \\ \mathbf{A}_{m \times n} \mathbf{O}_{n \times r} &= \mathbf{O}_{m \times r} && \text{(零行列を右側から掛けると零行列になる),} \\ \mathbf{O}_{r \times m} \mathbf{A}_{m \times n} &= \mathbf{O}_{r \times n} && \text{(零行列を左側から掛けると零行列になる).} \end{aligned}$$

1.4 行列の転置

- 行列の行と列を全て入れ替えることを転置という。

★ 行列 A を転置したものを A' または A^T と書く。

※ A' の ' は導関数という意味ではない。

★ e.g., $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 5 & 7 & 6 \end{bmatrix}$ のとき, $A' = \begin{bmatrix} 1 & 5 \\ 2 & 7 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}$.

★ 以下の法則が成立する。

$$(A')' = A \quad (\text{転置したものをさらに転置すると元に戻る}),$$

$$(A+B)' = A' + B' \quad (\text{和の転置は各行列の転置の和}),$$

$$(AB)' = B'A' \quad (\text{積の転置は各行列の転置を, 順序を逆にして掛ける}).$$

- $A' = A$ を満たす正方行列を対称行列という。

★ e.g., $A = \begin{bmatrix} 7 & 2 & 5 \\ 2 & 8 & 2 \\ 5 & 2 & 9 \end{bmatrix}$, $A' = \begin{bmatrix} 7 & 2 & 5 \\ 2 & 8 & 2 \\ 5 & 2 & 9 \end{bmatrix}$. つまり, $A' = A$.

★ 転置しても元の行列と同じ。

2 ベクトル (参考書上巻 pp. 68-69, 80-91)

- 列が1つだけの行列を列ベクトルという。

★ e.g., $u = \begin{bmatrix} u_1 \\ u_2 \\ \vdots \\ u_n \end{bmatrix}$. (n 行 1 列)

★ 単にベクトルという場合, 列ベクトルを指すことがある。

- 行が1つだけの行列を行ベクトルという。

★ e.g., $u' = [u_1 \ u_2 \ \cdots \ u_n]$. (1 行 n 列)

★ ベクトルを列ベクトルとして定義した場合, それを転置すれば行ベクトルになる。

- ベクトルも行列と同様に和, 差, 積の計算ができる。

例題 2.1 $u = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix}$, $v = \begin{bmatrix} 6 \\ 5 \end{bmatrix}$ とする. $u'v$ と uv' を求めなさい.

解法

• $u'v$ を求めるため, まず u を転置する (u' を求める). u は 2 行 1 列なので, u' は 1 行 2 列となる。

• $u'v$ は「1 行 2 列」と「2 行 1 列」の積なので, 計算結果は「1 行 1 列」となる。

★ 計算結果の第 1 行 1 列目:

先行ベクトル u' の第 1 行と後方ベクトル v の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $1 \cdot 6$, 2 番目

同士の積 $3 \cdot 5$ を合計.

- uv' を求めるには, v を転置する (v' を求める). v は 2 行 1 列なので, v' は 1 行 2 列となる.
- uv' は「2 行 1 列」と「1 行 2 列」の積なので, 計算結果は「2 行 2 列」となる.
 - ★ 計算結果の第 1 行 1 列目:
先行ベクトル u の第 1 行と後方ベクトル v' の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $1 \cdot 6$ が入る (2 番目以降はない).
 - ★ 計算結果の第 1 行 2 列目:
先行ベクトル u の第 1 行と後方ベクトル v' の第 2 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $1 \cdot 5$ が入る (2 番目以降はない).
 - ★ 計算結果の第 2 行 1 列目:
先行ベクトル u の第 2 行と後方ベクトル v' の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $3 \cdot 6$ が入る (2 番目以降はない).
 - ★ 計算結果の第 2 行 2 列目:
先行ベクトル u の第 2 行と後方ベクトル v' の第 2 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $3 \cdot 5$ が入る (2 番目以降はない).

$u = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix}$ なので, $u' = [1 \ 3]$ である. よって,

$$u'v = [1 \ 3] \begin{bmatrix} 6 \\ 5 \end{bmatrix} = 1 \cdot 6 + 3 \cdot 5 = 6 + 15 = 21$$

となる. また, $v = \begin{bmatrix} 6 \\ 5 \end{bmatrix}$ なので, $v' = [6 \ 5]$ である. よって,

$$uv' = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix} [6 \ 5] = \begin{bmatrix} 1 \cdot 6 & 1 \cdot 5 \\ 3 \cdot 6 & 3 \cdot 5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 6 & 5 \\ 18 & 15 \end{bmatrix}$$

である.

.....
例題 2.2 $u = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$ とする. $u'u$ と uu' を求めなさい.

解法

- まず u を転置する (u' を求める). u は 2 行 1 列なので, u' は 1 行 2 列となる.
- $u'u$ は「1 行 2 列」と「2 行 1 列」の積なので, 計算結果は「1 行 1 列」となる.
 - ★ 計算結果の第 1 行 1 列目:
先行ベクトル u' の第 1 行と後方ベクトル u の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $3 \cdot 3$, 2 番目同士の積 $4 \cdot 4$ を合計.
- uu' は「2 行 1 列」と「1 行 2 列」の積なので, 計算結果は「2 行 2 列」となる.
 - ★ 計算結果の第 1 行 1 列目:
先行ベクトル u の第 1 行と後方ベクトル u' の第 1 列をみる. 両者の 1 番目同士の積 $3 \cdot 3$ が入る (2 番目以降はない).
 - ★ 計算結果の第 1 行 2 列目:

先行ベクトル \mathbf{u} の第 1 行と後方ベクトル \mathbf{u}' の第 2 列をみる。両者の 1 番目同士の積 $3 \cdot 4$ が入る (2 番目以降はない)。

★ 計算結果の第 2 行 1 列目 :

先行ベクトル \mathbf{u} の第 2 行と後方ベクトル \mathbf{u}' の第 1 列をみる。両者の 1 番目同士の積 $4 \cdot 3$ が入る (2 番目以降はない)。

★ 計算結果の第 2 行 2 列目 :

先行ベクトル \mathbf{u} の第 2 行と後方ベクトル \mathbf{u}' の第 2 列をみる。両者の 1 番目同士の積 $4 \cdot 4$ が入る (2 番目以降はない)。

$\mathbf{u} = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix}$ なので, $\mathbf{u}' = [3 \ 4]$ である。よって,

$$\mathbf{u}'\mathbf{u} = [3 \ 4] \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix} = 3 \cdot 3 + 4 \cdot 4 = 9 + 16 = 25$$

となる。また,

$$\mathbf{u}\mathbf{u}' = \begin{bmatrix} 3 \\ 4 \end{bmatrix} [3 \ 4] = \begin{bmatrix} 3 \cdot 3 & 3 \cdot 4 \\ 4 \cdot 3 & 4 \cdot 4 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 9 & 12 \\ 12 & 16 \end{bmatrix}$$

である。

• $\mathbf{u}'\mathbf{u}$ や $\mathbf{u}\mathbf{u}'$ は計算できる。しかしながら, $\mathbf{u}\mathbf{u}$ つまり \mathbf{u}^2 は計算できない。

∵ 先行ベクトル $\mathbf{u}_{2 \times 1}$ の列数 (1) と後方ベクトル $\mathbf{u}_{2 \times 1}$ の行数 (2) が異なるため, 積が定義できないから。

⇒ ベクトルを 2 乗することはできない。

.....